

平成 23 年 4 月 7 日

「フィールドワーク」科研会議 第3回

(基盤研究(A) フィールドワーク方法論の体系化 - データの取得・分析・流通に関する研究 -)

松井 圭介

I 研究課題と進捗状況

1) 研究課題

松井の担当分担

H22～23 : A 「データの取得と管理」: 先行研究の探索

H23～24 : C 「データベースの構築」: データベースの構築と利用環境の整備促進

H24～25 : D 「データベースの高度利用, 公開と流通」: 研究・教育への活用実験

2) 研究のテーマとねらい

① フィールドワーク方法論の検討と体系化の試み (H22～23)

⇒ 上記課題 A & C

「人文地理学・地誌学関連の学術論文・書籍(和文)から, フィールドワークの手法やデータ等に関する具体的な記述内容をサーベイし, フィールドワーク方法論の整理および体系化を図る。」

(方法)

(1) 日本における人文地理学・地誌学のフィールドワークの実態

「人文地理」「地理学評論」ほか人文地理学・地誌学に関わる主要学術雑誌に掲載されたフィールドワークに基づく学術論文をとりあげ, 実際にそこで用いられているフィールドワークの手法について, データベースを作成する。

→ 「雑誌」また「年次」をどの範囲にするか 個人でできるのはせいぜい主要誌, 過去 10 年か

(現在の作業状況) 兼子先生のゼミとの協働作業。

① データベースの作成 (レコード数: 約 6900 件)

1987 年～2010 年までに掲載された人文地理学・地誌学関係論文のデータベース。項目は, 執筆者, 論文題目, 雑誌名, 発行元, 巻号, 年次, 頁, 英文タイトル, 研究対象地域

② フィールドワークの種別 (レコード数: 約 500 件)

上記データベースの中で, 「地理学評論」「人文地理」「経済地理学年報」3 誌掲載の論文(研究ノート等を含む)中でフィールドワークを実施しているものを, フィールドワークの方法に関するデータベースの作成 (2003 年～2010 年の 8 年間)。

(大まかな傾向)

2003年	30本/65本	聞き取り：25, アンケート：7, 観察：1 (複数集計以下同じ)
2004年	43本/74本	
2005年	51本/70本	聞き取り：31, アンケート：17, 観察：5, その他：4
2006年	36本/71本	聞き取り：25, アンケート：6, 観察：5
2007年	36本/60本	聞き取り：35, アンケート：5, 観察：2
2008年	29本/50本	聞き取り：13, アンケート：7, 観察：4, その他：6
2009年	25本/58本	聞き取り：20, アンケート：6, 観察：6
2010年	28本/48本	聞き取り：17, アンケート：4, 観察：3, その他：12

*人文地理関係の論文のうち、約56%の論文において何らかの形でフィールドワークがなされている。なかでも聞き取り調査は最も基本的な手法であり、アンケートや観察を用いた論文のなかでも、聞き取り調査と併用されているものが多数を占める。

*聞き取り調査の種類

- 1) 調査項目を事前に用意し、数多くの話者からの聞き取り(悉皆調査)。(特に農村系)
→聞き取りを重要な1次データとして利用。
- 2) 自治体など公的機関に対する聞き取り。
→聞き取りは付随的で、資料収集が主目的であることが多い。
- 3) 特定の企業・個人に対する集中的な聞き取り。
→企業調査、ライフヒストリーの聞き取りなど。

*その他の特徴

- 4) アンケート調査では、電子メールやweb上での回答という研究例も増えている。
- 5) ICレコーダー、ビデオの利用(参与観察)

*H23年度の作業

- 1) フィールドワーク資料のデータ化の方法についての検討
フィールドワークを実施した論文から地理学評論・人文地理の論説に掲載されたものを抽出し、各論文においてフィールドワークによって得られた地理的情報をいかにデータ化しているかを分析する。
→主題図・表等の内容分析
- 2) フィールドワークの方法(テクニック)に関する個別事例の蓄積
科研研究会・招待講演の文章化：堤・横山・池谷・仁平…
テープ起し&執筆依頼→中間報告書に掲載

(2) 人文地理学的フィールドワークの批判的検討

人文・社会科学全般においてフィールドワーク論にかかわる書籍・エッセー・論文を収集し、人文地理学におけるフィールドワークの特徴を、他の諸分野との比較から、批判的に検討する。

→民俗学・文化人類学・社会学との比較？ pending (アイデアの段階)

②筑波大学におけるフィールドワーク教育の整理と体系化 (H23~24)

⇒上記課題 B & D

「筑波大学人文地理学研究室および比較文化学類において実施されてきた野外演習・実験実習・野外実験の実施にかかわる暗黙知のホワイトボックス化を図ることを通して、フィールドワークの実施と教育に関するデータベースを構築する。具体的には、「人文地理学野外実験」(大学院) および「文化地理学野外演習」「実験実習」(比較文化学類) など、これまでに自分が直接参加してきたフィールドワークにかかわる研究・教育活動のテキスト化を図る。」

(方法)

(1) フィールドワークの実施方法にかかわる可視化

事前準備、現地での指導、事後処理、報告書作成等のマネジメントにかかわる部分に関して、テキスト化を図る。

(2) フィールドワークの実践にかかわる可視化

「地域調査報告／地域研究年報」をテキストとし、研究テーマ(目的)とフィールドワークの実践(実施方法や調査項目、聞き取り票やアンケート票など)および成果の表現(論文構成)や分析結果を整理する。

(例) * 「霞ヶ浦地域研究報告」第1号(1979年3月)

土地利用(変化)、家屋景観、建物構成、建物配置、間取り、自然環境、人文的立地環境、農業経営、〇〇性、農業景観、農業施設、就業形態、農業労働力、漁業生産、伝統的漁法、養殖業、漁業経営、漁業施設、姓、生産性、生活(通勤・通学)行動、買物行動、中心商店街、商店の開設年次、業種構成。

* 「地域調査報告」第14号(1992年3月)

土地利用(変化)、人口構成、人口移動、研究工業団地、企業進出、従業員属性、小売業分布、業種構成、小売業の形態(開設年次、経営形態、従業員、売場面積、土地所有、職住分離、増改築、商外収入、特徴と変化)、買物行動、伝統的灌漑システム、用水、灌漑施設、管理組織、芝栽培、水田転作、農家(業)経営、芝販売、流通形態、流通経路、

集落景観（変化）、アパート経営、生業形態、就業構造、産直、生活組織、年中行事、共同施設、開発計画。

*「地域研究年報」第32号（2010年3月）

門前町、講社、観光客、旅館利用、土地利用、大規模小売店舗、商店会、町内会、まちづくり、景観整備事業、商業空間、業種構成、店舗形態、セットバック事業、コミュニティ活動、居住経歴、サークル活動、友人関係、ふるさと祭り、住民参加、職住近接、男性、自然環境、人文環境、生業形態（変化）、土地改良事業、構造改善事業、農業経営、地縁的集団、血縁的集団、機能的集団、政策支援、販路（流通経路）、出荷組織、宅配、農外就業、交換分合、空港建設、外国人旅行者、宿泊施設、フライトクルー、国際航空貨物、フォワーダー、物流機能、通関。

→ 何を調査・記述し、何を明らかにしてきたのか。

→ 共通する事象と変化する事象。

(3) 筑波（大塚）のフィールドワークの検証

豊富なフィールドワーク経験をもつ研究室の先達への聞き取りを通して、フィールドワーク方法論からみた筑波（大塚）流の人文地理学史を検討する。

→pending（アイデアの段階）

II 2011年度の実行計画

中間報告書に向けて：

*H22,23年度に実施する「人文地理学野外実験」（大学院）の実施において、フィールドワーク体系化を意識する。野外実験のエスノグラフィーを作成するイメージで。

*学類実験（人文地理学・地誌学実験、文化地理学実験実習）のマニュアル的な研究成果を目指す。

（最終）報告書における松井分担のイメージ

（仮）日本の地理学におけるフィールドワークの構制

1. はじめに
2. 21世紀における地理学のフィールドワーク
 - 1) フィールドワークの種別・内容・分野別特徴
 - 2) フィールドワークの方法
 - 3) フィールドワークのデータ化
 - 4) フィールドワークの実際：例会・研究会での成果整理

3. 筑波大学におけるフィールドワークの実践
 - 1) フィールドワークの実施：事前準備・現地調査・追加調査～論文執筆
 - 2) フィールドワークの蓄積と成果：どこで／何を調べてきたか。「地域調査」の分析
 - 3) フィールドワークの実践：先達の知恵
4. 地理学におけるフィールドワークの批判的検討
5. おわりに

資料：地理学論文におけるフィールドワークデータベース

III 2010年5月以降の成果

(1) 論文・図書

1. Matsui Keisuke : Commodification of a Rural Space in a World Heritage Registration Movement – Case Study of Nagasaki Church Group. *Geographical Review of Japan*, **82**, 149-166, 2010年5月20日. (査読有)
2. Kubo, T., Onozawa, Y., Hashimoto, M., Hishinuma, Y., and Matsui, K. : Mixed Development on Sustainability of Suburban Neighborhoods: A Case of Narita New Town. *Geographical Review of Japan*, **83**, 47-63, 2010年10月10日. (査読有)
3. 松井圭介 : 宗教地理学. 星野英紀ほか編『宗教学事典』丸善出版社, 110-111, 2010年10月. (図書)
4. 松井圭介 : 宗教ツーリズムの展開と聖地の空間変容. 宗教研究, **367**, 162-163, 2011年3月30日. (査読なし)
5. 松井圭介 : 聞き取り調査・アンケート調査の方法. 上野健一・久田健一郎編『地球学シリーズ3 地球学調査・解析の基礎』古今書院, 177-181, 2011年4月15日. (図書)
6. 松井圭介 : 関東地方：東進する日本の中心. 菊地俊夫編『世界地誌シリーズ1 日本』朝倉書店, 印刷中, 2011年4月. (図書)
7. 松井圭介 : ヘリテージ化される聖地と場所の商品化. 山中 弘編『宗教とツーリズム』世界思想社, 印刷中, 2011年5月. (図書)

(2) 学会発表

1. 松井圭介 : 文化遺産観光と農村空間の商品化. 日本地球惑星科学連合 2010年大会, 幕張メッセ, 2010年5月23日.
2. 松井圭介 : 宗教ツーリズムの展開と聖地の空間変容. 日本宗教学会, 東洋大学, 2010年9月4日.
3. 松井圭介・齋藤譲司・上坂元紀 : 五島列島におけるキリシタン・ツーリズムと世界遺産

- 運動. 日本島嶼学会駒澤大会・三宅島シンポジウム, 駒澤大学, 2010年9月11日.
4. 堤 純・松井圭介: シドニーおよびメルボルン大都市圏における社会特性. 日本地理学会秋季学術大会, 名古屋大学, 2010年10月2日.
 5. Onozawa, Y., Kubo, T., Hashimoto, M., Hishinuma, Y., and Matsui, K.: The development of sustainable social structure in Narita New town. 5th Japan-Korea-China Joint Conference on Geography, Univ. of Tohoku, 2010年11月8日.

(3) 2010年度の活動

今年度は、昨年度に引き続き宗教とツーリズムに関する内外の文献を収集するとともに、国内で2回（長崎県長崎市，神奈川県鎌倉市），海外で2回（韓国，オーストラリア）の現地調査・資料収集を行った。研究の成果を国内4学会にて口頭発表するとともに，既往のフィールドワーク実践の成果を査読誌に学術論文として報告した。